

千代田の美観は 「世界に誇る伝統と国民性の結晶」

世界を旅した画家・藤田嗣治は、その著書で東京駅から六番町自宅までの都市景観を「世界に誇るべきわが伝統と国民性との結晶」と表した。（『随筆集地を泳ぐ』）千代田の美観とは日本国の誇りと威信そのもので、役所や土建屋の利権に左右されてはならない——などと私ごとが言わねばならないこと自体が情けない。

清水あつし



絵ハガキ「参謀本部の遠望」(明治大正頃)

ちよだ
かわら版
千声会
2024 年最終号

2024 年 12 月 10 日 発行

千声会

sensei_info@ml.globis.co.jp

次世代にわたす、私たちの「暮らし」に必要なもの

「千代田区民の声を届ける会」(千声会)は、地域のよい環境を守り、より良いまちづくりを進めるために行政や議会に区民の声を届けるべく、有志を中心に立ち上げた会です。千代田区では近年、地域の人々の様々な声を十分に吸い上げず、住民に対する説明やその手順も不十分なままで、一部事業者の優遇や、開発ありきとしか思えないような地区計画の変更・地域開発を、強引と言わざるを得ないやり方で進めています。

私たちは、地域の一人ひとりが持つ多様な意見を交え、より豊かな地域を一緒につくっていきたくて考えています。その声は小さくても、集まれば力になります。その第一歩として、「千声会」はこの「かわら版」を作りました。手に取ったみなさまが、ふと立ち止まり一緒に考えてくださることを願っています。そして、一緒に住みよいちよだをつくりませんか。

2月の千代田区長選の前に
伝えたいこと！
ぼうごなっこ



〈緑でいっぱい都市に〉これはパリ市長の公約です。今秋、パリを訪ねました。パリ市庁舎前の広場は「都市の森」に生まれ変わるどころでした。自動車進入を禁止したセーヌ川河岸の歩行者道路では、お年寄りも若者も散歩し、それぞれの時間を過ごしています。駐車スペースを無くして植樹する政策も進んでいます。パリは東京以上に車社会ですが、公約の実現に向けて緑を増やし、車重視から人中心への転換という大胆な挑戦が行われています。



セーヌ川河岸の歩行者道路 (2024年10月撮影)

一方、千代田区ではイチョウの街路樹を切る道路整備が強行されようとしています。木を切る千代田区と木を植えるパリ市。トップの政治家が違えば、まちづくりの方向性が正反対になります。

- <参考>
- 「パリは緑の都市に変貌?」(時事ドットコム『ふらんす』2020年3月号掲載) https://www.jiji.com/jc/v2?id=2017franceactu_31
 - 「パリに緑を、気候対策で市が計画-駐車場撤去して植樹、オアシス設置」(ブルームバグ 2024年11月19日)
 - 「令和3年1月31日執行 千代田区長選挙 選挙公報」(千代田区選挙管理委員会) https://seijiyama.jp/pdf/koho/20210131_131016_1.pdf
 - 文京区ホームページ「特別区(23区)特別職等年収一覧【区長】令和4年6月1日現在」 <https://www.city.bunkyo.lg.jp/documents/5756/10.pdf>
 - 千代田区長及び副区長の給与及び旅費条例(最終改正:令和元年11月29日条例第20号)
 - 千代田区長の給与の特例に関する条例(令和3年3月26日条例第11号)
 - 千代田区長及び副区長の給与の特例に関する条例(令和6年7月11日条例第18号)
 - 千代田区長等の退職手当に関する条例(最終改正:平成21年11月30日条例第25号)
- * 千代田区の各条例は例規集で検索できます。 <https://www.city.chiyoda.lg.jp/koho/kuse/gaiyo/rekishu.html>



木を植えるパリ市~市庁舎前広場を「都市の森」へ(2024年10月撮影)

樋口高頭区長は「区長報酬2割カット」の公約を掲げて当選しました。条例で2割カットを決めました。期限は当選の翌年2月末日まで。それ以降は2割カットしていません(ただし、

2024年8月分は官製談合事件の責任で減額)。千代田区長の基本給与は23区で一番高く月額128万6千円です(令和4年6月1日時点)。期末手当(ボーナス)を含めた千代田区長の年収は約2200万円、4年間で約8800万円。区民は任期4年間を通して「区長報酬2割カット」すると思っただけです。しかし3年間分の約1320万円はカットされていません。さら



木を切る千代田区~神田警察通りのイチョウ(2023年2月撮影)

〈公約〉とは何だろうか?

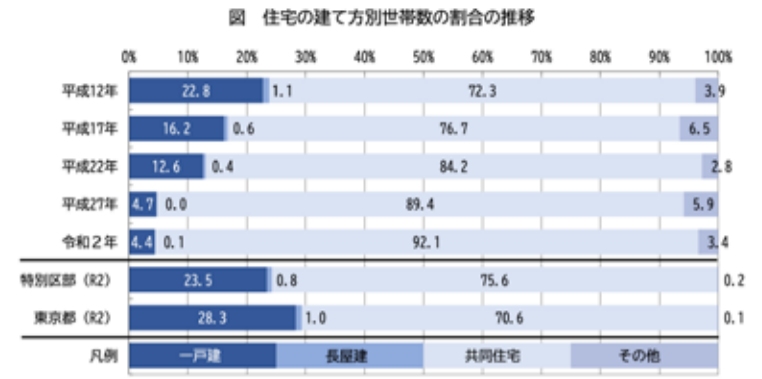
東京千代田法律事務所 弁護士 大城聡



千代田区が丸見え！おもしろデータ

町会加入率を居住形態別に見てみると、一戸建ての持ち家では95%以上が加入しているのに対し、分譲マンションは59.3%、賃貸マンションは23.3%と低い水準です。この加入率にはマンション単位での一括加入も含まれているため、実際に住民が

千代田区では、年々マンションが増加しており、区内でもその数が非常に多い地域です。『千代田区住宅白書』(令和6年3月)によると、平成12年に22.8% (3146戸) あった一戸建て住宅の割合は、令和2年には4.4% (1488戸) に減少しています(右図)。一方マンションなどの共同住宅は急増し、平成12年の72.3% (9990戸) から令和2年には92.1% (31324戸) となり、約20ポイント(戸数は3.14倍)の増加を記録しています。東京都全体の共同住宅割合は70.6%、特別区では75.6%です。千代田区の92.1%という数字がいかに高いかがわかります。



出典：千代田区住宅白書 (令和6年3月)

マンションの問題は、まちづくり・再開発とも深く関わりがあります。今後、人口減少が進む中でも高層マンション建設を促し続けるのか、あるいはリノベーション等の手法を取り入れていくのか、区の方針が問われています。

| 竣工年分類 (N=509) | 麹町 | 富士見 | 神保町 | 神田公園 | 万世橋 | 和泉橋 | 棟数 |
|---------------|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|
| 1971年以前 | 16 | 5 | 1 | 0 | 0 | 1 | 23 |
| 1972~1981年 | 62 | 22 | 7 | 2 | 7 | 9 | 109 |
| 1982~1991年 | 33 | 17 | 6 | 4 | 5 | 5 | 70 |
| 1992~2001年 | 16 | 10 | 8 | 3 | 8 | 11 | 56 |
| 2002~2011年 | 31 | 13 | 11 | 16 | 15 | 44 | 130 |
| 2012~2021年 | 31 | 11 | 13 | 17 | 9 | 30 | 111 |
| 2022年以降 | 6 | 0 | 1 | 1 | 2 | 0 | 10 |
| 合計 | 195 | 78 | 47 | 43 | 46 | 100 | 509 |

※~81年旧耐震基準マンション

出典：千代田区分譲マンション実態調査報告書 (令和6年5月)

参加している割合はさらに低いと思われれます。マンション住民に対して、町会・地域との関わりをどうつくっていくかが課題と言えます。

また、『千代田区分譲マンション実態調査報告書』(令和6年5月)で建築時期を調べると、区内の分譲マンション509棟のうち約4分の1にあたる132棟が旧耐震基準で建設されています(左図)。特に麹町地域(78棟)や富士見地域(27棟)に多く存在しています。区は耐震診断や耐震補強の助成を行っています。費用の確保や合意形成の難しさから、進展しにくい現状があります。

2024 12/17 (火) 二番町地区計画変更の説明会のお知らせ

時間：18:00～

会場：グロービス経営大学院東京校 1F ホール
千代田区二番町5-1



アクセスは、QRコードでウェブのページを開いたら「東京校」を選ぶ(麹町駅5番出口で右へ1分)



二番町地区計画変更(日テレ跡地再開発)について、本年7月に告示がありました。

- ・どう決まったの？
- ・都計審の附帯決議ってどんなもの？
- ・工事はいつからどのくらい？
- ・エリマネ棟って何？

など、いろいろわからないとの声が多く寄せられています。そこで、これらについて、区の担当の方から説明をうかがえることになりました。どなたでもご参加いただけます。皆様のご来場をお待ちしております。

内容：今年7月に決定した「二番町地区計画変更」の区のご担当者による説明および質疑応答

申込：URL、QR どちらからでも、ご入力ください。

<https://forms.gle/d9ga221xgzW65FEj8>



※区が配布資料数を確認するためです(ニックネーム可)

※質問も記入できます

※当日の飛び込み参加も可能ですが、資料の都合上、できるだけ事前申し込みをお願いします。

ちよだカフェ・第5回レポート

若者・女性の政治参加から考える「もっと良くなる ちよだの未来」



11月5日に開催された第5回ちよだカフェでは、能條桃子さん(NO YOUTH NO JAPAN 代表)の講演、久道瑛未さん(千代田区の弁護士)、おちょこまむさん(千代田区在住)、会場からのご発言も含め、活発な意見が交わされました。

能條さんは、20代の投票率が80%を超えるデンマークに2019年に留学。デンマークでは小学生から自分に「権利」があることを大人たちが教えていると語り、「(政治活動は)特別な子たちがやるのではなく、当たり前にある。デモをどう実行するか、立候補の仕方、政党の作り方も教科書に載っている」と話しました。

久道さんは「千代田区は日本の中心で住民参加の機会、人材、環境も整っているのに、対話システム、声を吸い上げる仕組みが整ってない。ここから変えていくことには日本全体にとっても千代田区に意義がある」と語りました。おちょこまむさんの「みんなで政治について話せる空気を作ろうと伝えたい。それが普通という社会を作りたい」という言葉も印象的でした。子どもたちと「どんな“まち”や“くらし”がいい？」と、政治を語れる未来にしたいですね。



千声会では、今年7月より千代田区のまちづくりを住民目線で考える『ちよだかわら版』を発行し、『ちよだカフェ』を開催してきました。上記12月17日は、今年最後の、これからの千代田区を考える重要な説明会です。是非ご参加ください！

また、今号が『ちよだかわら版』の本年最終号です。半年間、読んでくださったみなさま、ご寄付で支えてくださったみなさま、本当にありがとうございました。どうぞ良いお年をお迎えください！

生活の質・住環境を更に良くするために、あなたの声を聞かせてください

私たちが目指す千代田区

- 1、歴史・教育・文化を大切にする“まち”
- 2、いつまでも住みたい、そして住み続けられる“まち”
- 3、一人ひとりが尊重され、区民の声が届く“まち”



代表 堀義人



千声会 HP